

《報 告》

甲状腺癌およびバセドウ病の放射性ヨード治療における ガイドライン

森 豊*1	日下部きよ子*2	池窪 勝治*3	石川 直文*4
中駄 邦博*5	金谷 信一*2	御前 隆*6	横山 邦彦*7
久保 敦司*8	東 達也*9	伊藤 公一*4	野口 靖志*10
土持 進作*11	戸川 貴史*12		

要旨 放射性ヨード (^{131}I) 治療は、バセドウ病および分化型甲状腺癌を対象に行われている。1999年に治療用 ^{131}I 使用における退出基準が通知され、わが国でもガイドライン (治療指針) を示すべき時期がきた。このガイドラインは厚生労働省より日本核医学会に委託された平成 13 年、14 年度「放射性医薬品の適正使用に関する研究」、平成 13 年～16 年度厚生労働省班研究 (山下班)、研究課題「高精度小線源治療の開発及び評価に関する研究」の助成、ならびに日本核医学会の分科会、腫瘍・免疫核医学研究会「放射性ヨード内用療法」委員会の協力のもとに作成されたものである。

(核医学 42: 17-32, 2005)